

平成31年4月29日 頼政まつり『弓道演武』

第40回 頼政まつりを終えて!

高松町区長 筒井 俊明

平成最後の「頼政まつり」は、記念の40回目でした。節目の年に「獅子王(写し太刀)」を頼政公の墓前に奉供することができました。本来「獅子王」は、頼政公が鶴退治(めえたいじ)した時に天皇より恩賞として下賜されたもので、その後竹田城主赤松広秀、徳川家、土岐頼次を経て明治時代になり天皇家に献上されました。現在は東京国立博物館で管理されている国の重要文化財です。思えば「獅子王」は多くの人の手を廻っている太刀で、この「写し太刀」も朝来(竹田)、西脇(高松)と廻りながら人と人を結びつける働きをしていると思われまふ。



現在「頼政まつり」は、多くの方に集って頂いています。まずイベントにおいては、「新緑の中を歩くハイキング」にはじまり、「弓道の礼射」「詩吟」「よさこい」で、盛り上げていただいております。

まつり会場では、西脇市マスコットの「ニッシーとサクラ」が愛想を振りまいてくれて、「平和の鳩」が空を舞います。会場に来ていただいている多くの来賓や参加者の皆さんが談笑されて、ふるまいの「おにぎりやぜんざい」を食されています。このように多くの方々の御協力や参加のおかげで、高松町という小さな町で40年にもわたり「頼政まつり」が継続してこられた事に感謝の思いでいっぱいです。高松町の祭として始まった「頼政まつり」が、たくさんの人との縁で盛り上がってきています。今後も「頼政まつり」を中心として「人と人とのつながり」がますます深まっていけばと、考えており、これからも、たくさんの出会いが生まれることを願っています。

秋まつり

(平野町)

平野町は、文禄年間に阿江氏によって開村された町で、秋には、「秋まつり」が行われる。重春地区には、石上神社（板波町・4ヶ町）と春日神社（高田井町・3ヶ町）がそれぞれの氏子範囲での祭礼が行われておりますが、平野町は、町内に「八幡神社」が祭られており、町内で、単独の祭礼が行われております。今年度は、他の地区より1週間早く開催されて太鼓台が「宮入り」をおこない収穫の喜びと集落の発展を願いました。

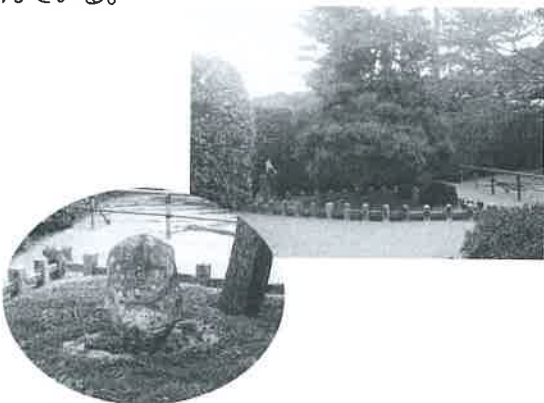


★ 頼政公と関連の平等院を訪れて!! ★

平等院は、治承4年（1180）以仁王（もちひとおう）の令旨に応じて挙兵した頼政公が、南都に向かわれた王の避難時間をかせぐ為の宇治橋で、平家軍に敗れて自害された場所である。宇治橋は京都から南都に向かう要衝の地で、橋板を引き果敢に迎え撃ったが、衆寡敵せず平等院に退き「扇の芝」にて子息らと自害された。その場所は、院内の鳳凰堂の西北に当たり、静かな場所に所在しており、同院内の不動院に供養塔も静かに佇んでいる。

12月7日（土）に参加委員7人で、宇治市の平等院を訪れて「頼政公の終焉地」を拝した。

石柱と鎖に囲まれた扇の形をした芝生の中に大きな松の木があり、その下に記念石が佇んでいる。



トンド焼き (板波町)

昔は、小正月に各地で正月行事(左義長)として行われていたが、最近は一部の地区で復活して地区の風習行事として実施されている所が多い。青竹を組み上げた火床に「正月のお飾りや門松など」を一緒に燃やして、その年の平寧を願った行事である。

当町では、昨年度に「太鼓屋台」を新調したので古い太鼓台を火床にして奉焼し、今後、町の繁栄と安全を祈念した。かつて幼年講行事の一つとして「おろろ」の行事を行っていたのもこの一部であり、五穀豊穡を願った「さいじょう」を町の4ヶ所に納める事も同時に行っていた。

その原点を探ってみると、昔 朝廷に於いて小正月に行われた「火祭り」で、正月に使って折れた鞠杖(ぎじょう)を陰陽師が集めて焼き、技量向上を願ったものであった、その際に書初紙(かきぞめ)と一緒に燃やし、書道の向上も願った。古文書よれば青竹を三本組み上げ、そこに「鞠杖」と「書き初め」などを燃やし「とうどやとうど」と囃したとあり、これが「とんど」のはじめとする。



景観づくり

やはづやま ～ 矢筈山の整備 ～

近年、矢筈山の評判もよろしく登山者も増えており、各地から来られる多くの方々に山頂からの素晴らしい眺望と自然の美しさを楽しんで頂いております。

その眺望は『ひょうご景観ビューポイント150選』に選ばれており、人気も高い!!それだけに登山路などの保守管理には「矢筈山の会」の皆様に変な御苦勞を頂いているところであります。今年度も「カウターの設置」や「危険箇所のロープ設置」を行って頂き、重春地区のシンボルとして皆様をお迎えしております。

どうぞ、この素晴らしい矢筈山からの美しさを満喫して下さいよう期待しております。



“#日本のへその緒”Instagramフォトコンテスト・佳作作品
hiroaki1444@矢筈山/NISHIWAKI CITY PROMOTION

重春のみどころ

なぎ お やましろ あと
鳴尾山城跡

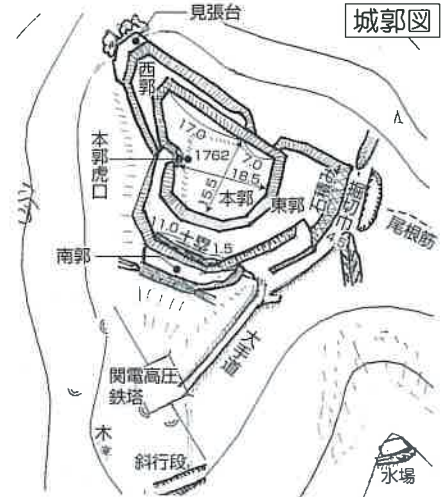


鳴尾山系の北端にある標高176mピークに「鳴尾山城」が存在していた。

その山城は、小さいながらも残存状態の良い城跡であり、戦国時代後期の城砦を今に伝えている。

その城構造は、図の様に東西24m・南北16mの「本郭」を帯郭（おびくるわ）で囲み、南からの尾根筋を堀切で遮断して、土塁・竪濠・水場やいろいろの防御施設を配置している。そして屋形は、西の麓（現・西脇地域職業訓練センター）にあったと考えられる。

その歴史は、野間（八千代区）地区の本拠を置く「在田氏」が支配地域の東端部に位置し、南方面・東方面を監視する「重要な出城」であった。ここからの眺めは素晴らしく西脇地区の風景はもちろんこの地域の主な山城を見ることができる最適の山城であった。



地区の話題 “コスモスを咲かす”



例年「景観づくり」として、コスモスを咲かせ地区の方々に「憩いの場所」を提供しております。今年度は平野町の道路脇にコスモスを咲かすことを試みた。

真夏の8月11日（日）早朝より「草刈り・草除去」を行い、18日に小型耕耘機で耕し

コスモスの種まきを行った。秋には雑草に負けず少しであったがコスモスが咲いた。



今年度の委員

- 和布町／山本治之氏 竹岡 昭氏 藤井直也氏
- 和田町／在田景侯氏 萩原和章氏
- 板波町／藤原孝三（会長）
- 平野町／時本輝男氏 中島祐嗣氏 時本輝明氏（会計）
- 高松町／藤原成弘氏 山口知孝氏
- 高田井町／藤原廣幸氏（会計監査）
- 谷 町／橋根幸雄氏

編集後記

今年度の「頼政まつり」は、第40回記念事業として『獅子王』の写し太刀を奉供する事が出来ました。弓道演武でも「鏑矢の放射」が出来て良かったと考えております。

